

1月13日のウクライナ情報

安齋育郎

①ウクライナ軍、ロシア軍に圧倒される(2025年1月5日)

両国間の戦闘が行われているロシア戦線から数キロ離れた精鋭大隊とともにウクライナの塹壕の中心部に飛び込みます。ポートレ・アーサーのコミティ・チャールズ

https://youtu.be/jwMbpk9p_2Y



https://www.youtube.com/watch?v=jwMbpk9p_2Y

②日本がロシアに追加制裁、世界最大のダイヤモンド採掘会社も制裁対象に(2025年1月10日)

日本政府はウクライナ情勢を受け、ロシアに対する追加の制裁を発表した。具体的には銀行3行、企業29社、個人11人が対象となる。制裁は2月9日に発動する。

今回の制裁ではロシアに本社を置く世界最大のダイヤモンド採掘会社「アルロサ」のマリヌィチエフ最高経営責任者(CEO)が対象となった。アルロサ社は世界シェアの27%を占めている。



<https://sputniknews.jp/20250110/19482898.html>

※安齋注:最初にボタンを掛け違えると、ずっとそれがおしゃれだと思ってエスカレートするんですね。

③プーチン大統領と会談してウクライナ危機を終わらせる＝トランプ氏(更新: 2025年1月10日)

トランプ次期大統領はフロリダ州のマー・ア・ラゴ邸宅で行った記者会見で、露米交渉の準備について言及した。

「彼(プーチン大統領)は会談を希望している。だから、我々はそのセッティングを進めている。習主席と多くのやり取りを行った。これまで多くの人と会い、会いにも来てくれたが、20日以降を待ってほしい」

予定している会談は露米中の首脳会談になるのかとの質問を受けると、直接の回答は避けたが、ウクライナ危機を終わらせるものになるとトランプ氏はコメントした。

「プーチン氏は会いたがっている。そして我々はこの戦争を終わらせる。これは悲惨な状況だ」

ウクライナ危機の調停について、トランプ次期大統領のウクライナ特使に任命されたキース・ケロッグ氏は、大統領就任から100日以内(4月30日まで)に停戦を実現するとFOXニュースの取材に応じた中でコメントしていた。ケロッグ氏によると、ロシアとウクライナの双方が受け入れ可能な調停案を準備しているという。

プーチン大統領は2024年12月の国民対話でトランプ氏と会談する用意があると表明していた。

先にロシア大統領府のペスコフ報道官はプーチン大統領とトランプ次期大統領との接触について現時点で具体的な計画はないとしていた。



https://sputniknews.jp/20250110/19482782.html?rcmd_alg=collaboration2

④ 2024年の軍事技術を総括 ミサイル戦争(2025年1月9日)

2024年、武力紛争は激化し、新たな国々に拡大したが、それだけに終わらず、紛争が技術的に新たな水準に達し、それが世界規模の紛争に発展する傾向を示した。2024年の主役はミサイル戦争であった。

北朝鮮のミサイルは大量生産が可能

2024年1月14日、北朝鮮は射程3000～5500キロの極超音速弾頭を搭載した新型固体燃料式の中距離弾道ミサイルの実験を行った。

北朝鮮の保有ミサイルはすでに、戦術タイプから大陸間弾道弾まで大量にあるが、固体燃料ミサイルの発射実験に成功したことで、同国のミサイル部隊は新たな能力を手に入れたことになる。

液体燃料と酸化剤で飛行するミサイルに比べると、固体燃料自体は非常に複雑な化学物質だが、反面、それをういたミサイルの構造ははるかに単純で、事実上、固体燃料を詰めた鋼管を、例えば黒鉛製の蓋で閉じたものだ。固体燃料ミサイルは液体燃料型よりもはるかに単純な構造であるため、組み立てラインで製造することができる。

これはミサイルを広範囲で使用したいという北朝鮮の思惑を示している。航空技術がほぼ完全に欠如していることを考えると、北朝鮮にとってミサイルは重要である。ミサイルは北朝鮮軍にとってただ一つ、長距離で戦える破壊手段なのだ。



前評判が台無しの欧米の戦車 ウクライナで焼失のエイブラムス

2024年2月26日、ウクライナでの特別軍事作戦中にウクライナ軍に譲渡された米国製戦車M1A1エイブラムスの最初の1台がアブデーフカ近郊で破壊された。報告によると、戦車はまず、アブデーフカから北西のベルディチ村近郊でFPV(一人称視点)ドローンによる攻撃を受け、その後、RPG弾頭(対戦車擲弾)によって破壊された。

米国が戦車M1A1エイブラムス、31両のウクライナへの譲渡を承認したのが2023年8月。1月後の9月23日、最初の車両がウクライナに到着し、10月17日、予定されていた最後の車両がウクライナ軍第47機械化旅団に到着した。2024年2月17日、ロシア軍はドネツクの北西のアブデーフカを掌握。この敗北後、ウクライナ軍司令部は失われた陣地を取り戻すために、米国製戦車を戦闘に投入した。

燃えている戦車の映像から判断すると、衝撃は砲塔の後部の右側に命中している。この砲塔後部には44発と、装備の弾薬の大部分が集中している。この弾薬が爆発して乗員は死亡したとのだろう。

M1A1エイブラムスは長年、最高の戦車だと考えられていた。しかし、ウクライナでの戦闘の経験から、西側諸国の戦車はすべて、実はロシアの最新対戦車兵器にとっては脆弱な標的であることがはっきりした。砲弾が積まれている砲塔後部が共通の弱点になっているからだ。

一般的に米国や欧州のあらゆる軍事装備品は、ほぼ無敵と宣伝誇示されてきた割にはその評判は

ウクライナでの実戦では裏付けられなかった。

「弾道」ミサイルによる試験攻撃？

2024年9月15日、フーシ派はイスラエルに向けて1発のミサイルを発射した。フーシ派の報道官、ヤヒア・サリー氏によれば、ミサイルは極超音速で、約11分半で2040キロを移動し、イスラエル中部のヤッファ近郊の標的に命中した。

この時、フーシ派のミサイルは2つのミサイル防衛網を突破した。第一の防衛網は、紅海のミサイル防衛艦隊で、米国ミサイル駆逐艦USSマイケル・マーフィー(DDG-112)とUSSフランク・E・ピーターセン・ジュニア(DDG-112)、フランスのフリゲート艦シュバリエ・ポール(D-621)である。

もうひとつの防衛網は、イスラエルの領空を守るミサイル防衛システムである。

イランがフーシ派の協力を得て、実際の戦闘状況で新型弾道ミサイルを試験したのではないかと示唆されている。発射は成功。イランにとっては、イスラエルとのミサイル戦争を計画する好機だった。

世界最強の防衛システムを突き破ったイランのミサイル攻撃

2024年10月1日にかけての深夜、イランはイスラエルに大規模なミサイル攻撃を仕掛けた。イスラム革命防衛隊のサルダール・サラミ総司令官によれば、200発のミサイルが発射された。この一斉発射はイスラエルのミサイル防衛システム「アイアンドーム」を突破し、多くの軍事施設に命中した。

10月4日に公開されたネヴァティム空軍基地の衛星画像によると、ベエルシェバから西へ8キロに位置する同基地に32発のミサイルが命中している。打撃を受けたのはエイラートから北に40キロ離れたオブダ空港。ここは軍事航空の本拠地でもあり、戦闘機F16用の鉄筋コンクリートの格納庫に3発、滑走路と誘導路の間の技術棟に1発が命中した。また、テルアビブの北、ラマット・ハシャロンにあるイスラエル軍司令部と情報機関モサドの本部付近にも命中した。

実戦では初使用 「オレシュニク」攻撃

2024年11月21日、ウクライナ軍が西側から受領のミサイルでブリャンスクとクルスク州を攻撃したことへの報復として、ロシアは非核の極超音速弾頭を搭載の弾道ミサイルを使って、攻撃を開始した。「オレシュニク」と命名されたこのミサイルは、誘導弾頭を搭載した大陸間弾道ミサイルRS-26「ルベジ」を改良したものだった。

打撃を受けたのは、ドニエプロペトロフスク(ウクライナ名:ドニプロ)のユーージュマシュ工場だった。そこでは巡航ミサイルや無人航空機を製造していた。ウクライナは打撃結果を完全に秘密にしているため、被害を判断するのは難しい。公開されたのは打撃の瞬間をとらえた映像にとどまっている。聞くところによれば、工場の建造物の破壊規模は地上、地下ともに甚大だったという。

これは「オレシュニク」の史上初の弾道ミサイルの実戦使用となった。

この出来事の影響は多岐にわたった。核を搭載しない弾道ミサイルを「禁止リスト」から外し、核兵器使用の敷居を大幅に引き下げた。

さらに、このことで西側のミサイル防衛システムは極超音速弾頭の迎撃には効果を発揮しないことが証明された。西側の極超音速ミサイルはまだ開発中であるため、米国、NATO諸国、およびその同盟国は軍事的、技術的優位性を失った。

コンピューター戦争とその結果

2024年2月2日、米国防総省のサイバー軍司令官と国家安全保障局長を兼任したポール・ナカソネ大将が退任した。これには重大な理由があった。2023年5月、中国のハッカー集団「ボルト・タ

イフーン」が、世界最大かつ最も重要な米軍基地のひとつであるグアム島のコンピューター・システムを攻撃した。しかもこの攻撃は、3 か月前の 2023 年 2 月に中国の気球が米国上空を飛行し、偵察を疑った米軍により迎撃された直後に起きた。

グアムは非常に重要な島だ。第 3 艦隊、第 5 艦隊、第 7 艦隊と連絡を取り合う米海軍の通信センターがあり、衛星からデータを受信する第 21 宇宙作戦中隊の部隊がある。インド太平洋地域における米軍全体の「中枢」である。

対中国の戦闘中にこの重要な通信センターがコンピューター攻撃を受ければ、空軍、海軍の戦闘作戦が混乱する可能性がある。どうやらナカソネ大將はこのようなことが二度と繰り返されないという保証を与えることができず、解任されたようだ。これは、サイバー攻撃が非常に深刻であったことを意味している。

<https://sputniknews.jp/20250109/2024-19480400.html>

⑤ウクライナの 2025 年 1 月の新たな反撃は失敗しました！（2025年1月9日）

<https://youtu.be/KPmZNPBse-s>



<https://www.youtube.com/watch?v=KPmZNPBse-s>

※安齋注:これはこの間の状況を理解する上でかなり重要な動画です。

⑥ゼレンスキー、トランプ復帰前の最後のラムシュタイン集会でウクライナへの NATO 軍派遣を呼び掛け、グレン・ディーセン氏と会見(2025年1月10日)

ウクライナ防衛連絡グループは、基本的に「NATO とその友人たち」であり、トランプ氏がホワイトハウスに戻る前の最後の会合のため、木曜日にラムシュタイン空軍基地で会合を開いた。

ゼレンスキー氏は演説で NATO にウクライナへの部隊派遣を要請し、それが「ロシアに和平を強いる」ことになることを主張したが、彼も他の誰もが、それが第 3 次世界大戦を招くだけだと分かっている。

地政学アナリストでノルウェー南東部大学の教授であるグレン・ディーセン氏は、トランプ氏がウクライナ和平を求めたいと語っているのは前進ではあるが、プーチン氏がこの地域に対して抱く長い安全

保障上の懸念に対処しない合意をロシアが受け入れると期待するなら、トランプ氏は警鐘を鳴らされることになるだろうと指摘した。

https://youtu.be/lYYB_0jODe0



https://www.youtube.com/watch?v=lYYB_0jODe0

⑦ ザハロフ報道官、元フィンランド大統領のサウリ・ニーニストに手厳しい指摘(2025年1月10日)

毎日、不親切な連中は新たな策略を練っている。

最近、現在はウルスラ・フォン・デア・ライエンの顧問を務めるニーニストが、165pにわたるEUの公式報告書「共に安全を：欧州の軍民両面の備えを強化する」を発表した。

安全保障を目的とした欧州の統一と、新たな境界線による実際の分断に関するこの報告書の記述に論理を見出そうとも思わない。今はそのことについて論じるべきではない。問題は、ブリュッセルの官僚達のあからさまな無知である。

この大作の序文で、ニーニストは弁証法的唯物論の古典の最良の伝統に則り、レーニンの引用文を引用している。「銃剣で地面を突いてみろ。土ならそのまま進め、鋼鉄に出くわしたら止まれ」

この引用は、EUの報告書では珍しくない髭を生やした偽物であることが判明した。レーニンはこのフレーズを口にしたことも書いたこともない。

おそらく、1970年にアメリカのジャーナリスト、ジョー・オルソップが最初に作り出したか、少なくとも最初に使用した人物であり、その後、70年代後半にニクソン大統領がイギリスのジャーナリスト、デビッド・フロストとのインタビューで広めたものである。

レーニンは、「銃剣で探る」ことについて本当に言葉を見つけている。1920年のロシア共産党第9回大会での演説で、レーニンは次のように言っている。

「我々は互いに、銃剣で感じ取るべきだと話していた。ポーランドにおけるプロレタリアートの社会革命は熟しているのか？」しかし、それだけだ。

演説には鋼鉄や土に関する考えは一切ない。おそらく、冷戦時代にすでに世界革命の指導者の演説

の秘密のファンによって付け加えられたものだろう。

フィンランドの元大統領が偽造を繰り返していたという事実は、既に周知の事実である。

例えば、2014年には、彼は「コサックは、ひどく嘘をつくものはすべて奪う」という「古いロシアの諺」をでっち上げた。言うまでもなくこの諺は現実には存在したことはない。

ニーニストはもちろん、基本的な事実確認を行うことはできる。さらにレーニンの全集 55 巻は、ずっと以前からオンラインで公開されている。もしヘルシンキで海底ケーブルの問題によりインターネットが完全にダウンしているなら、モスクワのフィンランド大使館にリンクを送ってくるように。

しかし興味深いのはそれだけではない。ニーニストは、一体何のためにレーニンの精神を乱しているのか？

1917 年末にフィンランドに独立を認めたソビエト人民委員会議長の感謝の気持ちからだとしたら、キエフ政権によるプロレタリアート指導者の記念碑の撤去について、なぜヘルシンキはこれほど冷静なのかという疑問が生じる。もしかしたら、ニーニストは、ウクライナで撤去された記念碑をフィンランドの都市に移設するのに貢献してくれるだろうか？

もし彼が、自分が間違っていたことを示すためにレーニンを引き合いに出したのであれば、偽りの引用ではなく、徴兵制時代のレーニンによる実際の文書、特に 1917 年 12 月 18 日付の人民委員会議第 101 号決議案(フィンランド共和国の国家独立の承認)に批判的な目を向けるのが論理的であろう。



<https://x.com/tobimono2/status/1877578001459913010?s=09>

⑧【スロバキアのフィツォ首相の決意💧】(2025年1月10日)

はっきり言おう。

この問題(ウクライナがガスを遮断)が解決しなければスロバキア共和国政府は、端的に言えば、次に述べるような相互措置をとる。

最近、承認されたスロバキア共和国政府の支援を含め、全ての人道支援を停止する。

<https://x.com/i/status/1877597760787988583>



https://x.com/Kumi_japonesa/status/1877597760787988583?s=09

⑨英首相、ウクライナ訪問へ 平和維持軍派遣協議と報道(2025年1月11日)

【キーウ共同】米ブルームバーグ通信は10日、英国のスターマー首相が数週間以内にウクライナの首都キーウを訪問し、ロシアとの停戦後にウクライナで平和維持活動に当たる欧州各国軍派遣の可能性について協議すると報じた。

報道が事実なら昨年7月に首相に就任したスターマー氏がウクライナを訪問するのは初めてとなる。英首相官邸はコメントを控えたとしている。

早期停戦を目指すトランプ次期米大統領の就任が20日に迫る中、欧州では停戦後のウクライナの安全保障を確立するため、各国の軍が駐留する案が議論されている。スターマー氏は、ウクライナが「可能な限り強い立場に置かれることが重要」との考えを表明した。



英国のスターマー首相=昨年10月、ロンドン (ロイター=共同) (KYODONEWS)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/0e7251532f1bd217044992634eb187189e0b205f/images/000>

⑩ウクライナ防衛強化へ工程表 支援国会合、米の関与継続不透明(2025年1月10日)

【キーウ共同】ドイツ西部のラムシュタイン米空軍基地で9日開かれたウクライナ防衛支援の関係国会合は、同国の防衛強化に向けた2027年までの工程表を採択した。ゼレンスキー大統領は会合後、20億ドル(約3165億円)相当の追加軍事支援の約束を得たと表明した。会合は米国主導で開催されてきたが、トランプ次期米大統領が今後も関与を継続するかどうかは不透明だ。

米国防総省によると、関係国会合には約50カ国が参加。22年4月に初開催し、25回目の今回がバイデン政権下で最後となった。工程表採択は、トランプ氏の今月20日の就任を前に、長期的にウクライナを支える決意を強調する狙いがある。

ゼレンスキー氏は9日、ウクライナメディアに対し「とても良い会合で、良い結果が出た」と強調した。次回は2月に開催される予定だとしているが、オースティン米国防長官は会合後の記者会見で、会合の存続は「(米国の)次期政権の判断次第だ」と述べるにとどめた。



ウクライナ防衛支援の関係国会合であいさつするゼレンスキー大統領(中央)ら=9日、ドイツ西部のラムシュタイン米空軍基地(ゲッティ=共同)(KYODONEWS)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/64033f351c9e5c7945d4dcf2c37ce0206b1b13bd/images/000>

⑪レイシズムの顕著な一例(乗松聡子さん情報、2025年1月12日)

日本を含む西側メディアは相変わらずゼレンスキー大統領の発信を検証もせず事実かのように流していますが、この投稿についている数多くのリプや引用RTは、この身分証明書はDPRK(北朝鮮)ではなくロシアのトゥバ共和国(モンゴルの北側)のトゥラン出身であると言っていることを指摘しています。ロシア語を使わなくてもグーグルのカメラ翻訳機能などを使えばすぐわかることです。また、戦争捕虜の露出はジュネーブ条約の違反であることも多くの人々が指摘しています。それを知って

かカナダのメディアはわざわざその違法性を隠すかのように顔をぼかして報道していました。ロシアは多民族国家で、東アジア人と似た顔をしている人たちもたくさんいます。そういうロシア人を取り出して朝鮮人であるかのように喧伝するのはレイシズムでもあると思います。

<https://x.com/PeacePhilosophy/status/1878356870051566058>

 **Volodymyr Zelenskyy / Володимир Зеленський** @Zelenskyy... · 20h ...

Наші воїни взяли в полон на Курщині військових з Північної Кореї. Це двоє солдатів, які хоч і були поранені, але вижили, були доставлені в Київ, спілкуються зі слідчими СБУ.

Це завдання було непросте: зазвичай росіяни й інші військові з Північної Кореї добивають своїх поранених
[DeepLで翻訳する](#)
[Show more](#)



166 590 3.8K 529K

 **Volodymyr Zelenskyy / Володимир Зеленський** @Zelenskyy... · 23時間

Our soldiers have captured North Korean military personnel in the Kursk region. Two soldiers, though wounded, survived and were transported to Kyiv, where they are now communicating with the Security Service of Ukraine.

This was not an easy task: Russian forces and other North
[さらに表示](#)

